

神道の歴史

18N1057 佐藤由崇

代表的な西東京市の歴史的建築物

②天神社・・・下保谷村の鎮守。拝殿の壁には珍しい**鰻絵**が施されている。
江戸期の建物で、平成29年の指定文化財に指定。

鰻絵・・・日本で発展した漆喰を用いて作られるレリーフのこと



③福泉寺・・・かつて下保谷地域で信仰の厚かった日蓮寺の中で**三十番神**も奉っており下保谷地域の歴史には欠かせない寺

三十番神・・・神仏習合の信仰で毎日交代で国家や国民などを守護するとされた30柱の神々



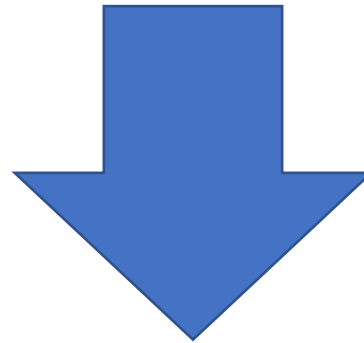
思ったこと

神様多いな...

神道の起源

日本は農耕が主たる生活手段であったためあらゆる自然現象に対してあらゆる神様を造り始めたことが日本の神道の起源とされる。

わかりやすく言うと



地震や台風、山火事など人の手ではどうしようもない自然現象に対して神という存在を見出してなんとか自分たちを納得させたということ

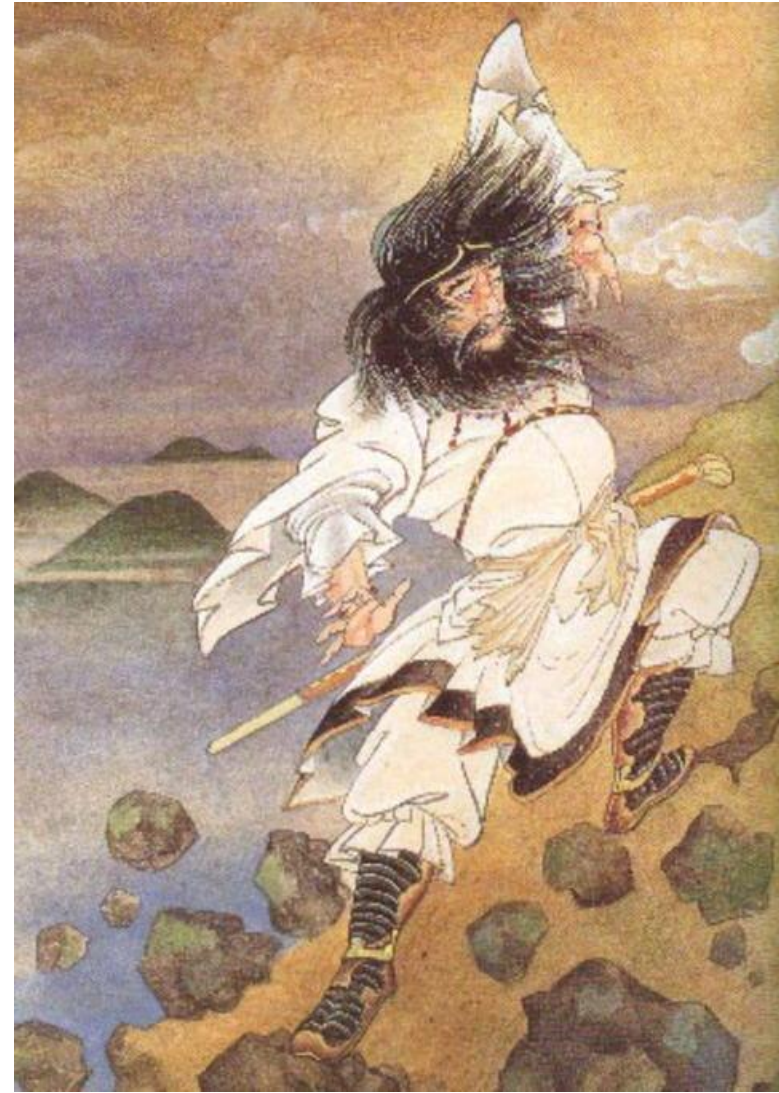


その後538年の欽明天皇の御代に朝鮮半島の百済の国から仏教がもたらされ神仏複合がなされる。

そしてさらに神様や仏様が増え30番神のようなものができたりした。

神仏複合…日本土着の神道と仏教が融合し一つの融合体系として再構成された宗教現象。





日本の主な神様

伊邪那美と伊邪那岐

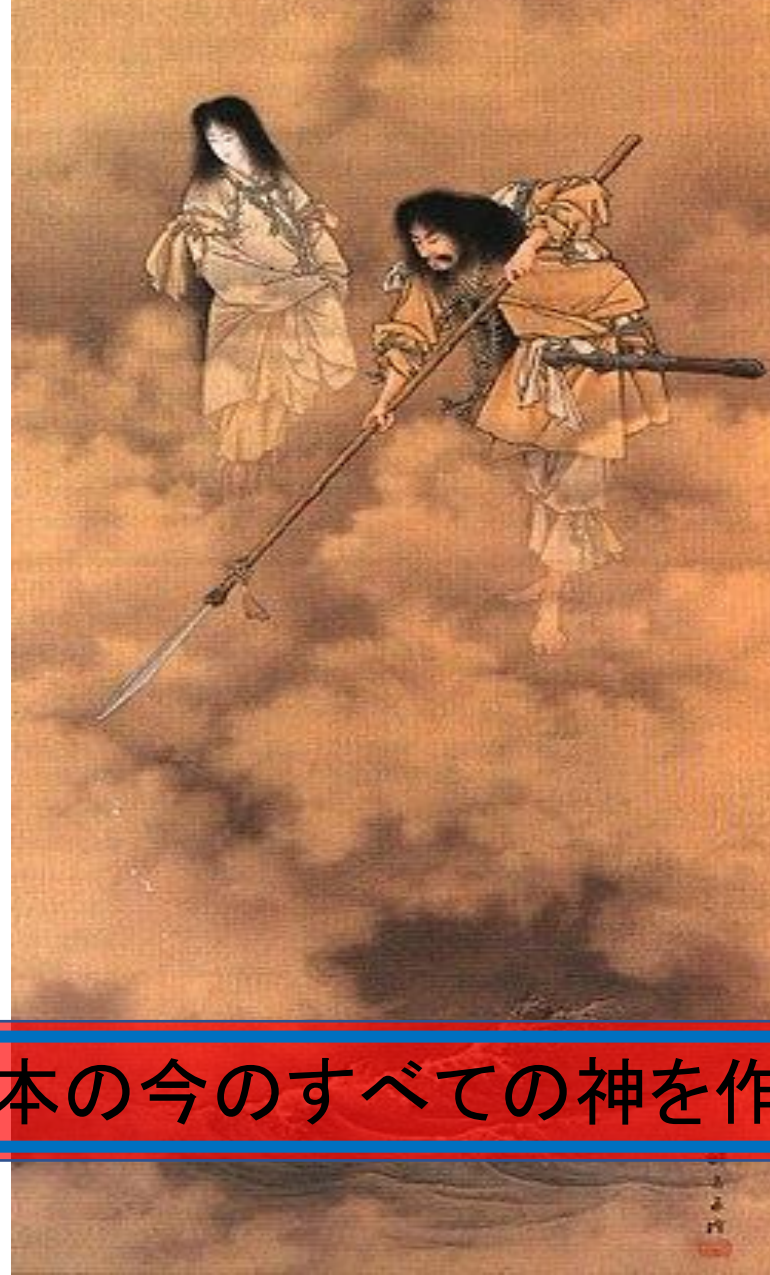
伊邪那美

伊邪那岐の夫であり妹。
火の神を作った時のやけど
が原因でなくなってしまう。
黄泉の国に伊邪那岐が迎え
に来るもその醜い姿を見て
伊邪那岐は逃亡。
その後黄泉の国にて黄泉津
大神となる。

伊邪那岐

伊邪那美の子であり兄。
須佐之男命や天照大御神
の父でもある。
八百屋の神によって天の沼
矛という矛を授かりその矛
で日本列島を作ったとされ
る。その後石の神や火の神、
水の神など多くの神を生み
出す。

二人が日本の今のすべての神を作ったとされる



天照大御神



日本の神の総氏神(日本全体の守り神のこと)とされている。太陽の象徴であり、須佐之男命の姉である。天皇家をたどると天照大御神にたどり着く。

須佐之男命



天照大御神の弟。神様の中では珍しく人間的な性格をしており、気分屋な一面もみられる。いたずらばかりをして天照大御神に島根県に追放されるがその先で八岐大蛇と戦ったりと改心しそこで救った娘と結ばれる。



大国主神

須佐之男命の第6子に当たる子孫。
須佐之男命の娘である須勢理毘売命(すせりびめのみこと)との婚姻の後にスクナビコナと協力して天下を経営し、禁厭(まじない)、医薬などの道を教え、大物主神(おおものぬしかみ)を祀ることによって葦原中国(あしはらのなかつくに)の国作りを完成させる。だが、高天原(たかあまのはら)からの天照大御神(あまてらすおおみかみ)の使者に国譲りを要請され、対話と武力を交えた交渉の末に幽冥界の主、幽事の主宰者となった。国譲りの際にかつて須佐之男命から賜って建立した「富足る天の御巢の如き」大きな宮殿(出雲大社)を修復してほしいと条件を出したことに天津神(あまつかみ)が約束したことにより、このときの名を杵築大神(きづきおおかみ)ともいう。

神道について調べてみて わかったことや思ったこと

・日本の島国という地形や災害が多いこと、農耕が主たる生活手段であったことなどそれらのあらゆる要素がいまの信仰形態を形づくったのだなと思った。

・自然のありとあらゆるものに神様を見出していたその想像力の高さと忍耐力がアニメ大国と言われたり生産技術の向上に発展していく最もの根源になったのかなと思った。